

第4回

岐阜市教育振興基本計画検討委員会

# 事務局説明

H29. 12. 21

# 目次

I これまでのまとめについて	全体経過	…4
	これまでの会議概要	…5
	第1回会議の要点	…6
	第2回会議の要点	…7
	第3回会議の要点	…8
	第3回会議のまとめ①	…9
	第3回会議のまとめ②	…10
	教育委員会の諮問の概要	…11
	留意事項①の対応	…12
	留意事項②の対応	…13
留意事項③の対応	…14	
II パブリックコメント手続で 提出された意見について	パブリックコメント手続の概要	…16
	提出された意見の概要	…17
III 今後の手続きについて	策定までの今後の手続き	…19

---

# I これまでのまとめについて

# 全体経過

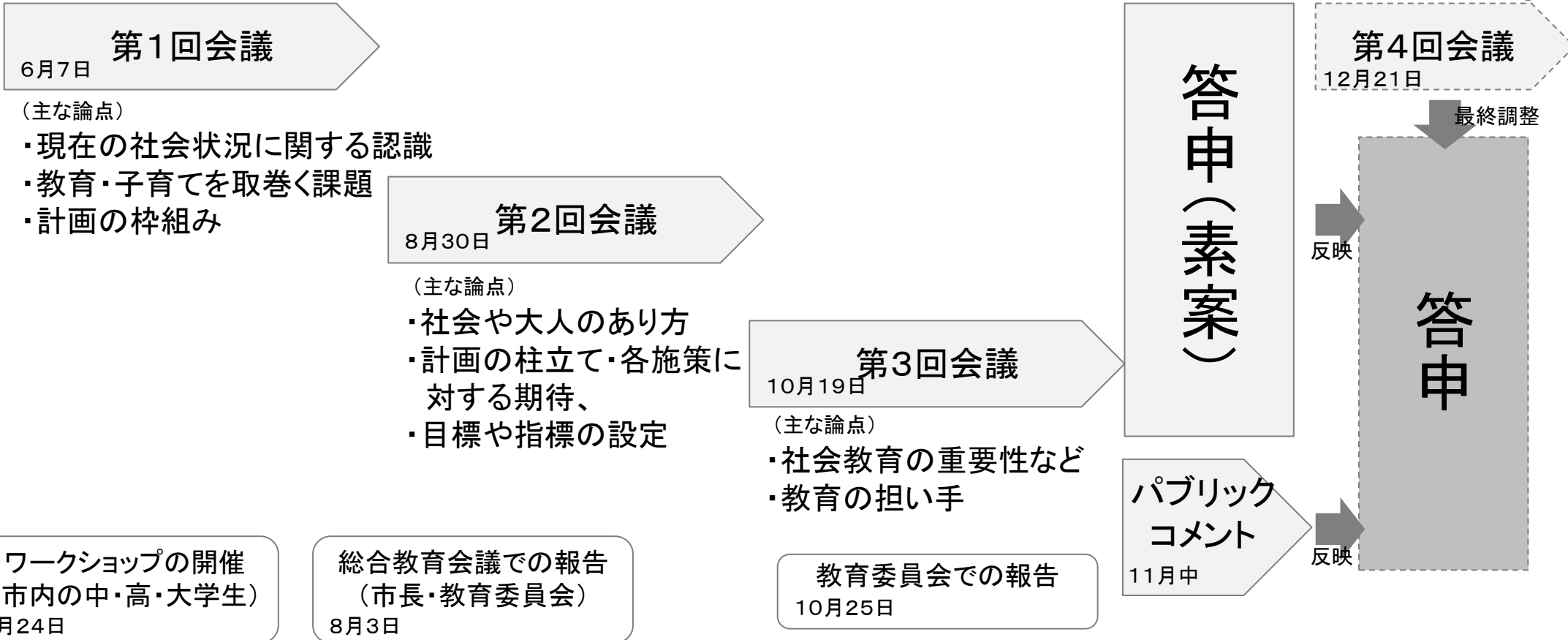
- ▼ 前回会議の議論やパブリックコメントの結果を踏まえて別紙のとおり答申を作成した。
- ▼ 第4回会議にて最終調整を行い、答申を決議する予定。

## 答申に至るプロセス

5月～10月

11月

12月



# これまでの会議概要

- ▼ 第1回会議では、  
現在の社会状況に関する認識や教育・子育てを取巻く課題等、  
計画の枠組みに関する事務局提案 について、意見が出され議論が行われた。
- ▼ 第2回会議では、  
社会や大人のあり方や計画の柱立て・各施策に対する期待、  
目標や指標の設定 について、意見が出され議論が行われた。
- ▼ 第3回会議では、  
答申(骨子)に関して意見が出され議論が行われた。

第1回会議  
6.7

- ・社会状況に関する認識、教育・子育てを取巻く課題等
- ・計画の枠組みに関する事務局提案 について議論

第2回会議  
8.30

- ・社会や大人のあり方や計画の柱立て・各施策に対する期待
- ・目標や指標の設定 について議論

第3回会議  
10.19

- ・答申(骨子)に関する意見

第4回会議  
12.21

- ・パブリックコメントの結果報告など
- ・答申の最終調整、決定

# 第1回会議の要点

- ▼ 6月7日に第1回会議を開催し、  
教育委員会の諮問の内容を踏まえ、教育や子育てを取巻く環境などについて包括的に審議した。
- ▼ それぞれの委員の教育・子育てに関する価値観や、生活に根差した実感などを共有し、  
答申の取りまとめに向けて頭出しを行った。
- ▼ 特に、事務局から提案した「教育の受け手のニーズ」について様々な意見が出された。
- ▼ その他、諮問において留意事項とされた「目標や指標の設定」について、消極的な意見が出された。

出された意見

答申に反映

## 価値観の共有

- ・教育の理念や方向性という根っこの部分について、  
学校に子どもを預ける保護者の方と、教育行政をされている方が本当に合っているのか。

- ・第1編と第2編に分け、  
第1編に重点とする事項を掲げた。

## 啓発

- ・大人の自覚を促すことがすごく大事ではないか。
- ・子どもは常に何かを与えてもらう立場ではなく、  
子どもと関わることで大人も触発されるので、その部分が喚起されると良い。

- ・第1編-Ⅲ  
「響きあいによる学びの循環」  
⇒全ての大人が地域の教育者

## ニーズと柱立て

- ・(ニーズごとに)分けて考えようという発想に賛成。色々な子どもがいるので、  
画一的な教育ではなく、それぞれの個性に応じていくとよい。

- ・第2編-I  
「取組みの推進にあたって」  
⇒コモン・チャレンジ・サポート

# 第2回会議の要点

- ▼ 8月30日に第2回会議を開催し、魅力ある教員を養成することの重要性や、目標や指標の設定などについて審議した。
- ▼ また、事務局から、第1回会議で審議したニーズに基づき組み立てた次期計画の構成案を示し、一定の評価を得た。
- ▼ その他、施策の検討において重視することとして個別的な意見が出された。

出された意見

答申に反映

## 魅力ある教員

- ・魅力ある教員をいかに育てていくか。  
自主研修や自己研さんをする機会が徐々に減ってきていて、それが教員のモチベーション低下に繋がっていないか。
- ・教師自身が主体的に学んで面白いと思った教材で教えるのは、子どもにとってもわくわくするし、伝わる。  
教師がやらされている感でやっている、子どもに伝わって、義務感となってしまう。

- ・第1編-Ⅱ  
「教師の専門性の確立と尊重」  
⇒子どもと向き合う時間の確保

## 目標や指標

- ・教育施策の成果は測りづらく結果が見えにくいものもあるため、施策の性質によるのではないか。
- ・調査疲れは本当に気を付けてもらいたい。
- ・最終的な説明責任を問われるときに、実際に行っている人たちに1人、2人に聞いてみたり、子どもたちに聞いてみたりということを随時やっていけば、「このときに数名から意見をもらっており、それを改善して翌年聞いてみたら、この前言った意見が反映されていたという声が聞かれた」という答え方ができる。それだけでも、モノや機会を提供する公共事業にとっては重要なのではないか。

- ・第2編-Ⅰ  
「取組みの推進にあたって」  
⇒PDCAサイクルの考え方  
⇒指標の設定に努める  
⇒客観的な評価の実施

# 第3回会議の要点

- ▼ 10月19日に第3回会議を開催し、事務局から、パブリックコメントにて公表する答申(骨子)の案を示し、一定の評価を得た。
- ▼ また、学校教育と社会教育を両輪として位置付けることや、担い手を育む視点などについて審議した。

## 出された意見

### 社会教育の重要性

- ・学校教育と社会教育を両輪と位置付けて、岐阜市の教育を推進していくことに第3期計画のオリジナリティがある。両者をしっかりさせないと、子どもの教育も覚束ない。
- ・社会教育に関するハード面の整備は整ってきている。今後は、ハードを維持しつつソフトを機能させながら、学校教育との連携を考えていかなければならない。そのことによって社会教育の重要性が際立ってくる。

### 担い手を育む

- ・学校教育や社会教育について、対象者ばかりを見ていないで、支えていく人を位置付けることが重要だ。

### オール岐阜市

- ・これは学校、これは保護者、これは地域の役割としてしまうのではなく、重なり合ってみんなで作っていかうという発想が最も基本にあるべきだ。
- ・岐阜市全体で、みんなで、一人ひとりを大事に育てていくということを明確に謳ってほしい。

## 答申に反映

・第1編-I  
「変化の時代を見据えて」  
⇒生きがいを見つけ、人生を豊かに幸せに生きる人々があふれるまち

・第1編-II・III  
「教師の専門性の確立と尊重」  
「響きあいによる学びの循環」  
⇒学校教育・社会教育における担い手  
⇒現在と未来の担い手

・はじめに  
⇒多くの市民や団体の参加・協力・支援  
⇒オール岐阜市で推進  
⇒子どもも大人も皆が響きあうまち



# 第3回会議のまとめ ①

## ▼ 社会教育の重要性などについて下記の意見が出された。

### 意見の内容

#### 社会教育の重要性

- ・学校教育と社会教育を両輪と位置付けて、岐阜市の教育を推進していくことに第3期計画のオリジナリティがある。両者をしっかりさせないと、子どもの教育も覚束ない。
- ・社会教育に関するハード面の整備は整ってきている。今後は、ハードを維持しつつソフトを機能させながら、学校教育との連携を考えていかなければならない。そのことによって社会教育の重要性が際立ってくる。

#### 学びの循環

- ・社会教育の趣旨として大人自身の成長もあるが、学ぶ姿を見せることなどによる子どもへの教育的な影響も視野に入れていることが、学びの循環というキーワードによって理解しやすくなっている。
- ・学校教育において将来の担い手を育てるのだから、地域もバックアップしないといけない。大人にはそのモデルを示してもらう必要がある。社会教育の中で、大人の学びや振る舞いをしっかりしていく場が大切だと思うし、学びの循環がキーワードになるのではないか。

#### エビデンス

- ・エビデンスという言葉をそれだけで終わらせてしまうと、様々な誤解や弊害が出てくる。
- ・エビデンスが前面に出過ぎると、新たな取組みが行いにくくなる。
- ・ミスリードを避けるには、PDCAサイクルに基づくなどとすればよいのではないか。

## 第3回会議のまとめ ②

### ▼ 教育の担い手について下記の意見が出された。

#### 意見の内容

##### 担い手を育む

・学校教育や社会教育について、対象者ばかりを見ていないで、支えていく人を位置付けることが重要だ。

##### 働き方改革

- ・先生も生活して生きている存在なので、先生の生活者としての側面に社会全体が配慮すべきではないか。そうしないと、学校教育も社会教育もうまくいかなくなってしまう。
- ・教職の魅力を高めたり、教員が元気になったりできる施策をどこかに盛り込んでほしい。目標の一つに「学校マネジメント力を発揮できる体制の構築」とあり、校長などの管理職の責務が記載されているが、行政としてどのような支援をしてもらえるのか見えるとよい。

##### オール岐阜市

- ・これは学校、これは保護者、これは地域の役割としてしまうのではなく、重なり合ってみんなで作っていきこうという発想が最も基本にあるべきだ。
- ・岐阜市全体で、みんなで、一人ひとりを大事に育てていくということを明確に謳ってほしい。

# 教育委員会の諮問の概要

▼ 平成29年第5回定例会(4月26日)に上程し、下記概要のとおり決議した。

## ■ 諮問事項

**「岐阜市教育大綱」や「コンパス・キューブ」を踏まえた、  
今後5年間の教育政策の目指すべき方向性及び主な施策について**

## ■ 審議に際しての留意事項

- ① 変化の激しい社会を生き抜くため、心と体の健やかな成長を促すことの重要性
- ② 施策の目的や対象を、市民の皆様に分かりやすく示すための工夫
- ③ 現行計画の点検評価状況を踏まえ、重点施策において目標・指標を設定し、  
(中略)事務の点検及び評価に役立てること

## ■ 理由

1. 岐阜市は、「教育立市」を標榜、国や他の自治体に先駆けた教育施策に取り組んできた  
○平成25年3月に策定した第2期教育振興基本計画に基づき、様々な施策を実施  
・英語教育(小学校1年生からの教科化、イングリッシュ・キャンプ) など
2. 一方で、未知の時代の到来(IoTや人工知能の加速度的な発達、高齢化社会等)  
○社会の変化に対処できる力を身につけるための教育が求められている  
○岐阜市の子どもたちは義務教育終了段階の学力が高い水準にある一方、意欲や志といった熱意(パッション)が低調
3. 状況を踏まえ、市長が「岐阜市教育大綱」を教育委員会と協議の上策定、「果敢に挑戦できる子どもを育む」ことを掲げた  
○教育委員会においても、教育により育むことを目指す資質・能力についての「コンパス・キューブ」モデルを作成  
・コンテンツ(基本的な知識や技能)、パッション(学びに向かう力等)、スキル(思考力、判断力、表現力等)を  
立方体の3つの軸として捉え、それらをバランスよく育むことを重視  
○また、平成29年度からは「スーパーシニア“ぎふっ子応援”事業」を開始  
・シニアの生きがいと子どもの豊かな学びの接点づくりを通じて、子どもの自己肯定感を醸成し、夢や目標を育む
4. 審議に際しての留意事項(上記)

## 留意事項①への対応

---

▼ 念頭に置いて議論を進め、下記のとおり答申に反映させた。

- 人生100年時代や健康寿命に言及することで、  
スポーツやレクリエーション活動の重要性を訴求した。(P12)
- 基本的方向性3を、  
「全ての人が生涯を通じて学びやスポーツを楽しむための教育」として推進を謳った。
- 学校体育について、  
「生涯にわたって継続して運動に親しむ習慣を身に付けさせる」として、  
目的を明確化するとともに、  
「学校体育の充実や地域と連携した学校部活動の推進」を位置付けた。(P29)
- 社会体育において、  
「スポーツやレクリエーション活動を通じて健康を保持・増進し、  
人生を豊かに生きることができる環境を整備」すると明文化した。(P40)
- 目標14を、  
「スポーツに親しむための取組みの推進や環境の整備」として推進を謳った。(P43)
- これまで、スポーツやレクリエーションに親しむための団体支援やハード整備に着目してきたが、  
新たに目標16「輝く個性を称え支援する取組みの推進」において、  
スポーツや文化芸術分野におけるリーダー一人に焦点を当て支援することを位置付けた。(P46)  
※支援を通じて、個人の技術力向上に寄与するとともに、  
広報活動や市民と交流する機会の創出を通じて、  
スポーツに親しんだり、夢や志を育んだりするきっかけとする目的。

## 留意事項②への対応

---

▼ 念頭に置いて議論を進め、下記のとおり答申に反映させた。

○ 重点とする事項を第1編に掲げ頭出した。

○ 基本的方向性の分類について、答申では、学校教育・社会教育の別に加えて、施策の対象者のニーズに着目して分類した。(P22～)

※結果、

・コモン:すべての人が等しく享受することができる場面や局面

・チャレンジ・サポート:成し遂げるのが難しいと思われる事柄にあえて立ち向かったり、前を向いて一歩踏み出そうとしたり、

困ったり悩んだりして何らかの支えを必要とする場面や局面

の2通りを踏まえて、4つの基本的方向性を位置付けた。

○ 本編の他、概要版を作成する。

## 留意事項③への対応

▼ 念頭に置いて議論を進め、下記のとおり答申に反映させた。

○ 4つの基本的方向性に沿って、17つの目標を位置付けた。

○ 指標について、第2編の冒頭において「指標の設定に努める」ことを掲げた。(P24)

※個別具体的な指標を位置付けることも含めて重点的に審議した。

様々な意見が出されたが、一致した見解として、  
教育施策の成果(単なる実施結果ではなく、実施によってどのような教育的成果が得られたか)が見えづらく測定が困難なことが指摘された。

その他、学校現場の調査疲れを懸念する意見が出された。

また、指標の設定の目的(取組みの効果検証)に立ち返り、  
運用可能な方法で目的を達成する手段(関係者からのアンケート・ヒアリングなどに基づく質的評価)について具体的な提案が行われたため、答申に反映させた。

※本論点は、平成29年9月に実施したベネッセ教育総合研究所との意見交換会においても取り上げた。  
ベネッセ教育総合研究所からは、

・数値だけを追いかけて始めると、施策が“対策”になってしまう。

・個々の子どもが変わる事例はあるが、

全体でどうなったかというのは様々な変数が相互に関わっているため断定しにくい。

・目標や指標の設定による施策の改善は理想論として分かるが、  
現場が運用することを考えると難しい面も多い。

などの意見が出された。

(意見交換会の結果は、第3回検討委員会の資料として提供した。)

---

## Ⅱ パブリックコメント手続で 提出された意見について

# パブリックコメント手続の概要

- ▼ 岐阜市住民自治基本条例(平成19年条例第11号)に定めるパブリックコメント手続を下記のとおり実施した。
- ▼ 結果、1件(3点)の意見提出があった。 ※詳細次スライド

## 実施概要

案 件	第3期岐阜市教育振興基本計画(素案)
期 間	平成29年11月1日(水)～11月30日(木)
配布場所	岐阜市役所、各コミュニティセンター、 市民活動交流センター(ぎふメディアコスモス)、市ホームページ
応募資格	次のいずれかに該当する方 ①市内在住・在勤・在学の方 ②市内に事務所・事業所を有する方(法人、その他の団体を含む) ③本案件に利害関係を有する方
結 果	1件(3点)の意見提出 ※詳細次スライド



# 提出された意見の概要

▼ 下記3点の意見が提出された。

## 意見の概要

1. 連 携	目標4「地域や家庭とともに歩む教育の推進」など、教育委員会外との連携の視点が重要。冒頭の「はじめに」においても「多くの市民の参加・協力・支援」とあるが、「市民や団体」などとした方が、広がりがあるのではないか。
2. 安 全	目標7「学校安全の推進」とあるが、これまでのエアコン整備やトイレの洋式化を考えると、安全はもとより、過ごしやすい学校づくりの視点も含めるとよいのではないか。
3. 魅 力	目標8「放課後の居場所の確保と魅力の向上」、目標13「郷土資源の魅力の向上」とある。それぞれの魅力の意図するところは分かるが、言葉自体に少し曖昧さを感じる。

---

## Ⅲ 今後の手続きについて

# 策定までの今後の手続き

- ▼ ①基本計画検討委員会(第4回会議)の議論を踏まえ、答申内容の最終調整を行う。
- ▼ ②・③年明け以降、教育委員会において審議を行い、年度内(2月予定)に議決する。

手続きフロー図

